

社乃杜

秩父神社社報

柞乃杜(ははそのもり)

第 13 号

平成 7 年 12 月 3 日

(大祭)



武甲山

ほの明り
オ、ぬ

年 ほご

みまつり仕へ

太鼓打ち

居れば

鎮魂の秋 みたましすめのとき

戦後五十年の秋 ひとつの時代が終ろうとする時
ここ秩父の山里は 永代続く冬祭を今迎えています。

○
戦後の厳しい世相を何とか生き延びてきた山里の私どもを 暖かい眼差して支えて下さった
秩父宮勢津子妃殿下の今秋の閑かな御永眠を悲嘆しつつ
ひとつの時代の終りを嗜みしめながら それでこそ終えてはならぬ故郷の祭を
私どもは受け継ごうと 心を新たにしているのです。

○
ことしの冬祭は鎮魂の秋。

故郷の山河の稔りの秋を享けて その国魂の冬の安らぎを和み鎮める祭
戦後五十年の故郷の行末を望みつつ その為にこそ散華した英靈を鎮め祀る祭
そして尊い秩父宮家を六十有余年のあいだ ほぼ御一人で守り続けられた
亡き妃殿下の氣高き御靈を崇め鎮める祭。

○
生命ある者の限りあるその生命を弥つぎつぎに 和み鎮め受け継ぎ喚び活かす故郷の祭
秩父の冬祭は 変らぬ鎮魂の祭なのです。

解説 秩父神社(13)

埼玉県文化財審議委員

坂本才一郎

◆秩父神社社殿

災害復旧工事覚書

(2)



桿の杜の大けやき

社殿改修総合計画の立案に際し、当時は四十二年度の補助金確保のため社殿の修理工事予算書、仕様書、設計図の提出を催促されるが、神社では免税申請書に添付する社殿以外の建物を含めた総合計画の予算書を早急に作製する必要にせまられていた。

- ① 御社殿の位置の問題
御社殿が完成しても納額はかけられない
- ② 末社七十五社の位置と様式
例大祭神幸行列の神輿、高張り提灯、供物台、御神馬、其他の約三百名の人達の休息所
- ③ 三十七年に秩父祭り屋台・笠鉢が重要有形民俗文化財となり、社殿周辺は雜踏をきわめ、神門の柱間を広くして入口の混雑を緩和しないと、事故が発生すると警備当局からの指摘之等の問題点を勘案し、宮司様と綿密な打ち合せをなし、現在神門と拝殿との間隔十六米余であるが、これより更に十メートル後に社殿を建築することとした。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿の旧位置を示す記念樹として工事中も大切に扱ってきた神である。
- ④ 五メートル後に拝殿の右前に神がある。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿を移動した場合は旧位置を明示するが、現在拝殿の右前に神がある。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿の旧位置を示す記念樹として工事中も大切に扱ってきた神である。
- ⑤ 五メートル後に拝殿の右前に神がある。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿を移動した場合は旧位置を明示するが、現在拝殿の右前に神がある。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿の旧位置を示す記念樹として工事中も大切に扱ってきた神である。

これには次の様な問題が関係していた。

次に末社七十五社であるが、新編武藏風土記稿や秩父志にも末社七十五社としは雜踏をきわめ、神門の柱間を広くして入口の混雑を緩和しないと、事故が発生すると警備当局からの指摘之等の問題点を勘案し、宮司様と綿密な打ち合せをなし、現在神門と拝殿との間隔十六米余であるが、これより更に十メートル後に社殿を建築することとした。この神は御本殿側面の中央にあつたもので、御本殿の旧位置を示す記念樹として工事中も大切に扱ってきた神である。

また、神門の柱間を広げて混雑を緩和すると言うが、神門は現在の例大祭の混雑など予想もせず建設したもので、通常の参詣者なら充分の柱間であった。門は大正十四年の竣工で内務省神社局の角南技師を顧問とし、設計は伊勢神宮造営局技師岡田貞次郎氏で、棟梁は地元の名匠丸岡治助氏であった。門の全体の姿もよいが、彫刻の文様や鋸金具の文様すべて桃山風の洗練された图案で統一され、歌舞伎座を設計した岡田信一郎氏の作図で、歌舞伎座の玄関その他細部の文様と類似しているものがみられる。

東塔には元龜(一五七一)年間の兵乱後でも七十五坊が存在した。慈光寺にも、かつては収山にならい七十五坊が存在したのである。縁起によれば七十五坊の衆徒が年に一度、秩父の山々をまわり富士にのぼり帰山し、帰験坊に笠をぬぎ自坊に帰ったという。この七十五坊の衆徒が東九番觀音靈場のある寺として知られている。

また、慈光寺は比叡山の東塔に属し、東塔には元龜(一五七一)年間の兵乱後でも七十五坊が存在した。慈光寺にも、かつては収山にならい七十五坊が存在したのである。縁起によれば七十五坊の衆徒が年に一度、秩父の山々をまわり富士にのぼり帰山し、帰験坊に笠をぬぎ自坊に帰ったという。この七十五坊の衆徒が室町時代に七十五坊を勧請したのはないだろうか。七十五坊を一棟とした建築様式からも七十五坊との関係が濃厚である。

今回の総合計画では、社殿に額を掛けることができないため、両側に額殿、それをつなぐ歩廊に末社七十五社を祀り外観も立派にしたが数々の歴史を秘めた末社でもあることから、秩父札所巡拜の人達が昔時の慣行に基き、末社の前で觀音経をあげる時代がきても恥じない構成としたのである。

妙見宮と秩父觀音靈場の関係は秩父札所二番真福寺板行の「秩父札所開創十三



末社七十五社

秩父宮勢津子妃殿下薨去



御靈安かれと誅び奉る

宮司 蘭 田 稔

かねて七月五日以来、宮内庁病院に入院中の秩父宮勢津子妃殿下には、去る八月二十五日午前十一時二十八分心不全のため薨去あそばされました。当社におきましては、ご入院の当初から快愈と社頭にて大神さまに毎朝ご祈願を申し上げてまいりましたが、その甲斐もなく神避り坐したこと、誠に哀惜の極みと存じ奉ります。

かねて七月五日以来、宮内庁病院に入院中の秩父宮勢津子妃殿下には、去る八月二十五日午前十一時二十八分心不全のため薨去あそばされました。当社におきましては、ご入院の当初から快愈と社頭にて大神さまに毎朝ご祈願を申し上げてまいりましたが、その甲斐もなく神避り坐したこと、誠に哀惜の極みと存じ奉ります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。



（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

古来の殯とて今は術なき衰しみの内にせめては豊島岡の比翼塚に仲睦まじく鎮まり坐せとお祈り申し上げ奉ります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

（仁親王殿下とご成婚以来、ご称号に因む当地方を格別御心に懸けて下さり同八年夏八月には両殿下お揃いで当社にご親拝、当時の蘭田稻太郎宮司が社司を兼務奉仕中の三峯神社が特にご用意申し上げた台臨記念館には五日間も滞在されるなど、爾來、昭和二十八年一月四日親王殿下薨去の後も、宮家ご公務ご多端のなか実に前後十八度も当地に台臨を賜つたのであります。

謹
描
根
岸
敬
氏



秩父宮勢津子妃殿下



秩父宮雍仁親王殿下



スポートの宮様、山の宮様とし
て広く国民から親しまれ敬愛され
た淳宮様は、大正十一年六月二
十五日に御成年式を挙げられま
した。大正天皇の御意思の御發
露により、秩父の名を御採りに
なり、秩父宮を御創立なされて
以来、秩父郡市民はことさら親
しみふかく、お慕い申し上げる
ようになり、宮様も幾度となく
秩父へおいでになられました。

しかしながら、宮様には不幸にして病に冒され、昭和二十八年一月四日御逝去されました。五十年という短い御生涯でございました。私達は悲報に接し、ひたすら御冥福をお祈り申し上げました。その後間もなく九月七日、宮様の御遺徳を偲び、永く後世に伝えるために多くの郡市民が集い、当時の高野市長を中心として社団法人「秩父宮会」が創立されました。

秩父宮会は、例年五月三日に秩父神社で行なわれる御靈祭を始め、豊島岡御墓所での御命日参拝、そして秩父宮記念体育大会やロードレース大会、六月には霧ヶ峰で開催する奥秩父山開式など各種の記念事業を長年にわたり実施してまいりました。

また、秩父宮記念市民会館や記念室、三峯神社の記念館や小鹿野碑など、宮様にゆかり深い施設が建設され顕彰されております。

秩父宮会会長 加藤博康



両殿下をお偲びして

この間、秩父宮勢津子妃殿下には、当会に対しまして格別の御交誼を賜りました。

特に、埼玉国体や秩父まつり会館落成式に御台臨あそばされた折、更には宮邸へ多勢の会員が参上した際などに、親しく笑顔でお言葉をいただきました。御生前、宮家に参邸した会員に對し、秩父夜まつりのポスターをお持ちになられながらよくご説明をして下さったそうです。

こよなく秩父を愛してくださいました。秩父宮の御葬儀には、会員多数が秩父様の永眠なされている豊島岡墓所に参列させていただきました。激動の時代はもとより、つねに国民に対し明るい笑顔でスポーツに親しむ樂しさを御教示いただいておりました妃殿下の御冥福をひたすらお祈り申し上げる次第です。

勢津子妃殿下弔拜記帳所

去る八月二十五日秩父宮勢津子妃殿下におかれましては、心不全のため薨去あそばされました。

当境内地にあります勢津子妃殿下御直筆の歌碑前に弔拜記帳所を設け、地元の方を初め、たくまに訪れた数多くの方々に記帳して戴く姿に、勢津子妃殿下のお人柄が偲ばれました。

弔拜記帳所

氏子青年会活動報告

靖國神社特別参拝に参加して

会員 丸岡 康一郎

外出にはちょうど良い陽気の秋の一日、十月十五日、靖國神社特別参拝に参加させていただきました。

各地を旅行する際には、時間を取れる範囲で神社仏閣等見学をしてきましたが、靖國神社については初めてであり、良い機会を与えていただきました。

当日は日曜日のためか道路も予想され

た混雑もなく、バスは予定より一時間あ

まり早い到着で周辺を散策する時間もと

れましたが、まだ早い時間と思われるの

に、人出が多いのには驚きました。靖國

神社は、本殿、拝殿ともに昭和から平成

にかけて大改修工事が行なわれ、鮮やか

な中に、莊厳な雰囲気を醸し出しています。

予定時間に参集所に集合し、神社の歴

史等のご説明や権宮司様のご挨拶の後、拝殿に向かいお祓いを受けた後本殿にて

蘭田宮司様の玉串奉奠にあわせて全員列

拜致しました。

行きの車中で埼玉県神社

府長蘭田宮司を読ませてい

ただきました

が、参拝中、改めて現在の



日本の繁栄の礎となつた英靈に感謝するとともに、今年は昭和に直すと七十年でありますが、このコンサートを続けて参りました。大戦後半世紀を経て、ともすれば歴史が風化する中、正しい歴史認識の必要を改めて感じました。

参拝後には遊就館を見学し、新生日本を信じつつ、戦地に散つていった英靈の魂の記録を拝見しましたが、今の日本があるのは、先人のお陰と感じられずにはいられませんでした。

午前中に靖國神社を後にして、九段会館にて昼食、その後は浅草方面へと向かい、充実した時間を過ごすことができました。このような機会を与えていただきことに感謝するとともに、平和のありがたさを実感できた一日でもありました。

観月コンサートを終えて

実行委員長 鈴木 建志

担当副会長 松本 星

担当副会長 松本 星

去る十月十八日に第五回の観月コンサートが開催されました。

秩父宮勢津子妃殿下のご逝去に接して

予定時間に参集所に集合し、神社の歴

史等のご説明や権宮司様のご挨拶の後、拝殿に向かいお祓いを受けた後本殿にて

蘭田宮司様の玉串奉奠にあわせて全員列

拜致しました。

行きの車中で埼玉県神社

府長蘭田宮司を読ませてい

ただきました

が、参拝中、改めて現在の

る為の一助になればと思い微力ではあります、このコンサートを続けて参りました。私は急なご案内にもかかわらず、秋の夜空のものと九町会から四十三名（内女性三名）の会員が参加し、和やかな雰囲気のなかにも、廻りの人達のスコアーを気にしながら真剣な表情で熱戦が繰り広げられました。

今回初めて経験された方も、簡単に樂しくそして多少なりともゴルフの醍醐味を味わえたと喜んで頂きました。これを機にレクリエーション部会としても、健康づくりの一環とし、今後計画

ターゲットで実施されました。今回のグランドゴルフは、過日の観月コンサートが日程変更になつたために延びました。

氏子青年会の第一回グランドゴルフ大会が、去る十一月四日（土）夜六時より秩父小野田のグランドをお借りしてナイトで実施されました。今回のグランドゴルフは、過日の観月コンサートが日程変更になつたために延びました。

表紙について

今回の表紙は、「佐乃杜」第六号でもその作品を掲載させていただき、古き良き秩父の風景を数多く描かれた故中島無意先生の作品である。

昭和三十年前半、開発される前の雄大な武甲山を背に広大な敷地を有している秩父公園では、野球や草競馬などが盛んにおこなわれていた。また、桜の名所

でも知られ春ともなると花見の人々で、大変な賑わいをみせていたといふ。

人々の生活が変化すると同時に環境もまた変化せざるを得ない。中島先生の作品は、郷土秩父を愛する者にとって、まさに貴重な遺産と言えよう。

◆◆◆

表紙の和歌は、今は「き当社元権齋宣、浅見太郎氏が昭和四十七年正月の宮中

の御歌会始御題「山」に寄せられた歌である。例大祭を迎えた早朝の情景を詠ま

れたもので、佳作の榮誉に浴した氏の代表作。後に

四十余年打ち続けたる太太鼓

雲の上まで届く嬉しさ

と、その喜びを詠まれている。

氏は明治四十一年吾野に生まれ、昭和の初めより当社に奉職。先の大東亜戦争

では応召、厳しいシベリア抑留の体験もあり、歌集「草原」「花桐」等にその心

境を多く詠まれた。昭和四十九年「歌と観照」同人。後に

かつて「神社の太郎さん」と氏子の皆さんに親しまれた方である。現在の当社

浅見武史齋宣の父君に当たり、その十年祭がこの秋宮まれた。

神饌田稻刈行事



社報第十二号で紹介した秩父郡横瀬町にある秩父神社神饌田において、本年もみごとな稲穂がみのり収穫の時季を迎えた。

秩父神社神饌田御田植祭は、当社恒例行事の一つに数えられ、例年六月中旬(本年六月十八日)神饌田前に祭壇を設け当社宮司が斎主を勤め奉仕することとなっている。また、本年より神事終了ののち、宮司そして田の管理者である富田孝氏(現横瀬町長)自ら菅笠、白丁、地下足袋という出で立ちで田に入り一株一株丁寧に苗を植えられた。

当初、六月まで不安定な天候のため日照不足となり、低温が断続的に続いたため作物への育成に多大な影響が及



ぶのではないかと心配されたが、七月中旬以降天候が持ち直し気象観測史上記録を塗り替えるほどの猛暑の日が続いた。

農林水産省の作柄概況によると、関東では平年並を上回る作況指数一〇五の「やや良」とのこと、当神饌田においても順調に生育し、たわわに稔った。十月七日、日の大神の恵みを受け金色の立派な穂をつけた稻を、宮司として稻を育て上げた富田孝氏が、充実感と感謝の気持ちを込め、一株一株丁寧に刈り取り豊作の喜びを分かち合った。

■御正月様授与について

例年十一月下旬より下境内神札授与所にて御正月様を授与してまいりましたが、本年新崇敬会館「平成殿」建設工事に伴い、上境内授与所にてお渡しすることとなりました。大変ご迷惑おかけしますが、ご協力のほど宜しくお願ひします。

妻の媒約により大神さまの大前において結婚の報告を致しました。諸先輩方の家庭を参考にし、明るく楽しい家庭を築いて行きたいと思います。若輩者で御座いますが今後とも宜しく御指導・御鞭撻をお願い致します。

尚、子供は鶴(こうのとり)の御機嫌にお任せ致します。



権祢宣 岩田勝宏

去る十月二十六日に皆様の御陰を持ちまして蘭田稔宮司夫

■自分自身で苗を植え、日の大神の恵みを得て、たわわに稔った稻を収穫する喜びと、実体験でわかる充実感と感謝の気持ち。「もの」が豊富であればあるほど逆に体験的に心が益々貧しくなっている様な気がする現代社会だからこそ

神のめぐみを思へ世の人」と感謝すべきではないでしょうか。

■前号の御田植神事、そして、この稻刈行事で、普段何気なく、また当たり前に食物をいただいている現代の私たちの生活。それどころか「もの」が豊富にありすぎて、その多くをゴミにしている現実をどのように受けとめ考えているでしよう。当たり前のことですが、当たり前にできる自然のように思い、引き続きご指導ご鞭撻をお願い申します。



権祢宣 枝浦邦茂

昭和六十年四月より秩父神社に奉職して十一年目になります。

秩父路の澄みきった空気に、一際、屋台囃子の音が響きわたる季節を迎え、ここに社報「柞乃杜」第十三号をお届けします。

職員結婚報告

編集後記

印 刷 所	〒三六八 秩父市東町二七一八	編 集 発 行 業 秋 父 神 社 社 務 所
FAX	(四四二) 二四一五五九六	T E L (四四二) 三一〇二六二